過 去 の 災 害 記 録

1） 台風、高潮、豪雨

大阪に大災害をもたらす最も代表的なものは台風であるが、大阪の地理、地勢上台風の通過するコースによって発生する災害の態様は異なっており、その関係から見た大阪の災害の概要は次のとおりである。

(1) 位置的関係

大阪はわが国のほぼ中央に位置しているところから、台風が九州方面に上陸しても上陸後の経路はそのほとんどが大阪の西北方を通過するコースをたどる。大阪に接近して通過するときには暴風雨あるいは高潮を伴いやすく、また反対に台風が大阪より東方を通るときには、その影響を受けて豪雨をもたらし水害の発生することがある。

(2) 地勢的関係

大阪の中央部をなしている畿内平野の西側は大阪湾に接し、この大阪湾は遠浅で湾口が南西に開くV字型となって、高潮の起る最も悪い形状をなしており、全国的にも最も高潮の発生の多い湾口となっている。

この高潮が最も集束される大阪湾の最深部に大阪市が位置しており、この大阪市はその昔淀川と、この淀川に合流していた大和川によって造られた大デルタ上に発達した都市であって、地盤もきわめて低い。また、この湾奥から南の沿岸にそって堺、泉大津、岸和田、貝塚、泉佐野市等の大阪の主要都市が連なっているので、高潮が発生した場合（地震による津波の場合においても）甚大な被害を受けやすい。

一方畿内平野の外周三方を北は箕面、龍王山脈、東は生駒、金剛山脈、南は紀伊山系の諸山脈に囲まれており、淀川、大和川の二大河川をはじめ大小数百の河川がこの間を貫流点綴して大阪湾に注いでいるほか、万余の池沼が山間の低地や平地に点在している。このため一たび豪雨があるときは、河川池沼のはん濫、決壊等による被害を受けやすい。

(3) 台風のコースとの関係

① 暴風の吹きやすいコース

台風が大阪の西方または西北方を通過する場合は、暴風雨及び大阪湾に高潮をもたらすが、特に第2室戸台風のように大阪湾の主軸に接近して北上する台風は、大阪にとって最も危険な、最も強烈な暴風と最も甚だしい高潮を伴う。このコースを通る台風は風による被害が主体となり、高潮及び暴風による大被害をもたらすが、雨量は割合に少ないので降雨による被害は比較的軽微に終っている。

しかし、このコースでもその来襲が梅雨期の場合は(9月台風のように大きく発達せず小型台風の場合が多いが)、西日本に停滞している梅雨前線に大きな影響を与えて豪雨をもたらすことが多い。

② 大雨の降りやすいコース

昭和28年9月の台風13号や、伊勢湾台風のように、大阪の東方あるいは大阪の東南方を通過する台風は豪雨を伴い、低地帯の浸水はもとより淀川、大和川の大洪水並びに中小河川、池沼ははん濫し、あるいは決壊するなど大きな水害をもたらしている。このコースは風台風と反対に雨による被害が主体となり大水害を起こすが、いわゆる台風の可航半円に当たるので暴風による被害は比較的少なく、また高潮被害のおそれはほとんどない。